

小中学校における異文化交流支援プログラム ～広く開かれた日本へ向けて～

慶應義塾大学 理工学研究科 博士課程
博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型1期生

吉岐航

概要

- ▶ 各小中学校が導入しやすいような異文化交流活動の枠組みを作り普及させることにより、グローバル人材の要件の一つである「異文化理解力」のボトムアップを目指す。
- ▶ 「モデルケースの作成と提供」、「プラットフォームの創設」、「ALT*からMCC**へ」の3項目によって構成
- ▶ 副次的な効果としては、生徒の外国語学習へのモチベーション増加および海外学生への日本の宣伝の2点を期待。

*) Assistant language teacher / **) Multi-cultural communication coordinator

背景・課題

- ▶ トップ型からボトムアップ型へ 海外から我が国へ入ってくる外国企業・外国人を受け入れ・協働していくためには、「トップ型」だけでなく「ボトムアップ」の教育が必要。
- ▶ 異文化理解教育の拡充 グローバル人材には、「外国語運用能力」だけでなく、異文化理解力を始めとする他の資質も必要。

提言の具体的内容

「小中学校における異文化交流支援プログラムの創設」

(A1-3) 異文化交流のパッケージを作成し各学校へと共有する枠組みの創設:

↓
モデル校で得られた事例の共有(特にICT利用)

(B1-4) 異文化交流を行う相手校を探すためのプラットフォームの創設

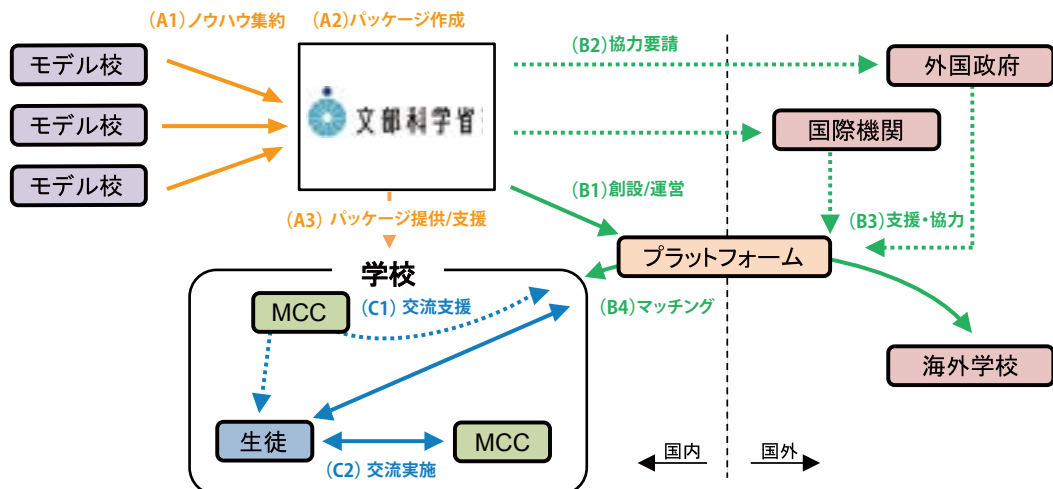
↓
異なる様々な学校との交流を支援

(C1-2) ALTのMCCへの改称, およびその役割の拡充

↓
ALTの役割を国際支援まで拡充, 交流を円滑化

期待される効果 主: 異文化交流活動を普及させることにより、グローバル人材の要件の一つである「異文化理解力」のボトムアップ

副: 生徒の外国語学習へのモチベーション増加 / 海外学生への日本の宣伝



提言先 文部科学省